

雨水流出抑制施設の設置のお願い

「雨水流出抑制施設の設置に関する指導要綱」のご説明

1. 対象となる事業

- 大規模民間施設：敷地面積が500㎡以上の建築
- 公共施設、公益的施設の建築（敷地面積に関わらず全て）

（１） 建築の確認申請（建築計画の通知を含む。）が必要な事業のうち、新築、増築、改築が対象です。

※大規模民間施設の増築で対象となるものは、増築部分の建築面積÷建蔽率が500㎡以上となる場合です。
ただし、以下については東京都協議対象事業です。

- ①都市計画法に基づく「特定街区」「都市再生特別地区」など、都の許可又は同意を要する事業
- ②建築基準法に基づく「総合設計」などのうち、都が許可する建築物にかかる事業
- ③地方住宅供給公社法や独立行政法人都市再生機構法などに基づく事業

参照 <https://www.tokyo-sougou-chisui.jp/youkou/index.html>

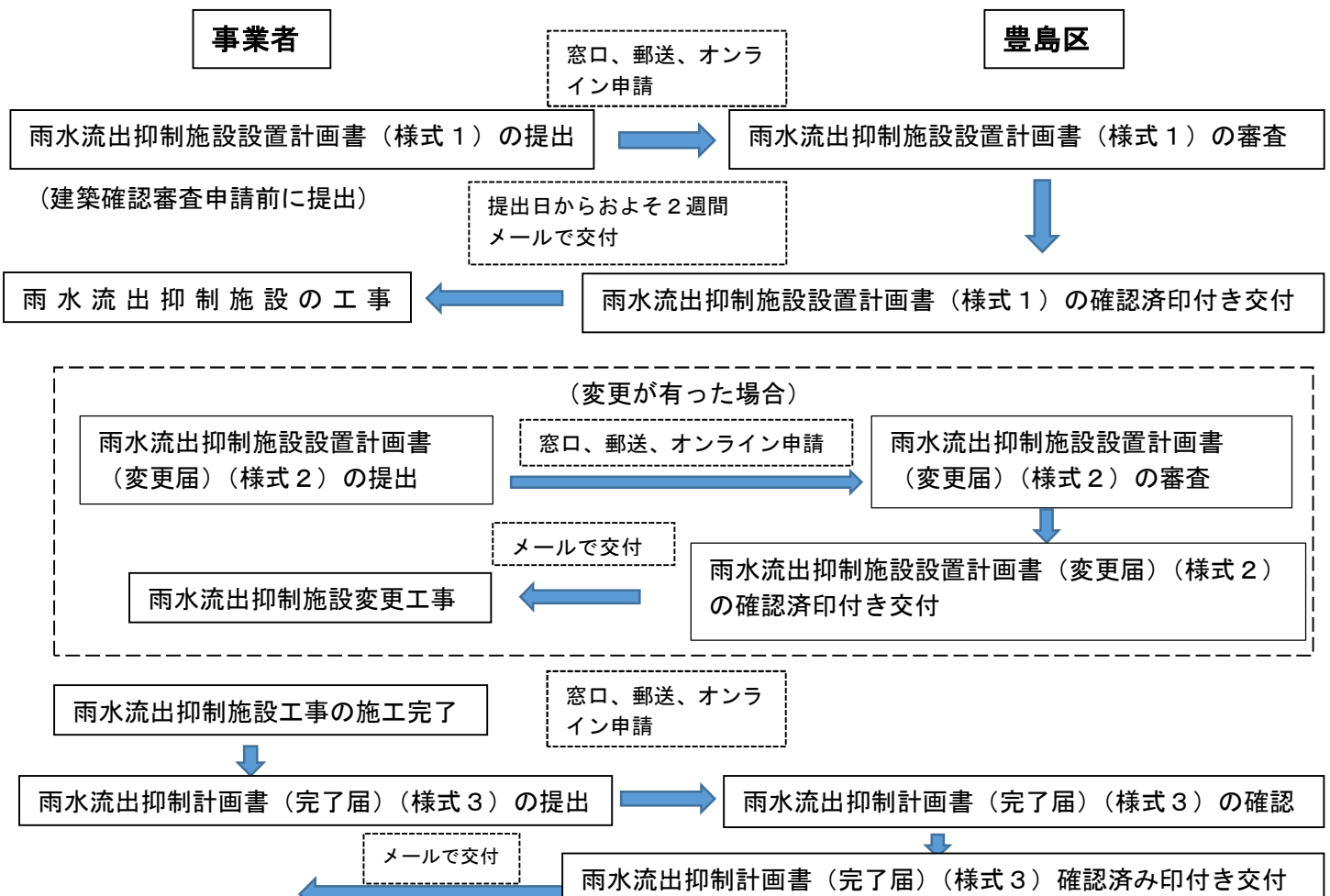
（２）すでに雨水流出抑制対策を実施し、要綱で定める対策量を満たしている場合は対象外となります。

※計画書の提出は必要です。

（３） 設置、維持管理に要する費用は、事業者等のご負担でお願いします。区から助成金等を交付する制度はありません。

（４） 敷地面積500㎡未満の民間施設については、計画書の提出は必要ありませんが、雨水流出抑制施設の設置にご協力ください。敷地面積500㎡未満の個人が所有する住宅の建築については、工事費の助成がありますので、工事前に区に相談にお越しください。

2. 申請手続きの流れ



3. 設計手順・設計方法

(1) 必要な対策量を計算します。

対策量(㎡) = 抑制単位対策量(0.06 ㎡ / ㎡) × 敷地面積(㎡)

※この対策量を上回るような雨水流出抑制施設の設置計画、検討を行ってください。

※豊島区内の抑制単位対策量は、0.06 ㎡ / ㎡です。

※増築時の対象面積は、増築部分の建築面積÷建蔽率で求めます。大規模民間施設については、500㎡以上が対象です。

(2) 雨水流出抑制施設の種類、配置等を具体的に検討します。

雨水流出抑制施設

浸透施設(浸透ます、浸透トレンチ、透水性舗装、緑地など)

貯留施設(貯留槽など)

浸透施設と貯留施設の組み合わせ

①「浸透ます、浸透トレンチ」は、標準構造以外の製品を使用する場合、浸透量等が分かるメーカーの資料等を添付してください。

※浸透量の算出は、「(4) 浸透施設の浸透量(対策量)」 「4 雨水流出抑制施設の標準構造及び諸元」により行ってください。

・汚水など雨水以外のものを流入させないでください。

・浸透施設の設置位置に関しては、「東京都雨水貯留・浸透施設技術指針(資料編)」P52を参考に設計してください。

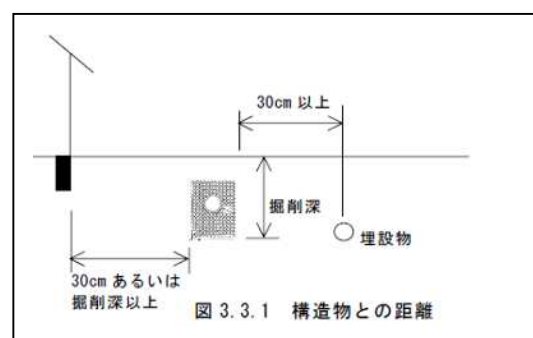
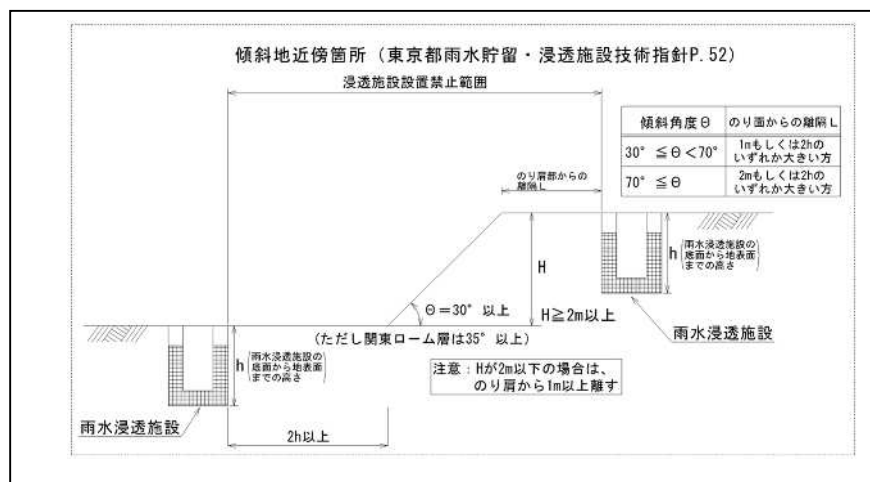
②「透水性舗装」は、原則として標準構造を使用してください。(P9透水性舗装参照)

※「土砂災害(特別)警戒区域(急傾斜地の崩壊)」(東京都建設局ホームページ掲載

<https://www2.sabomap.jp/tokyo/>) 並びに擁壁及び法面の近傍地は、貯留施設を設置して下さい。擁壁及び法面の近傍地の詳細は、「東京都雨水貯留・浸透施設技術指針(資料編)」P52によるものとします。

<https://www.tokyo-sougou-chisui.jp/shishin/index.html>

「東京都雨水貯留・浸透施設技術指針(資料編)」P52抜粋



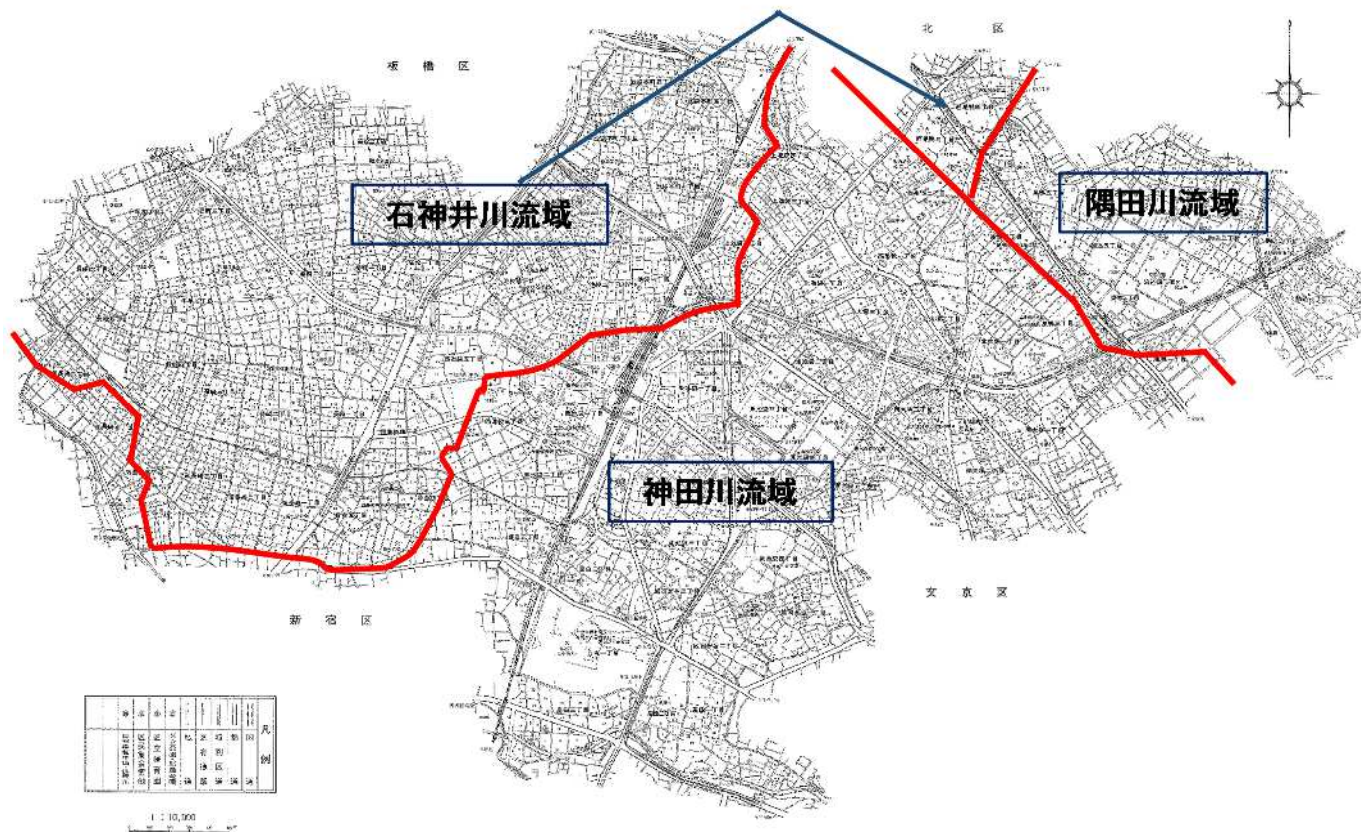
(3) 貯留施設

- ① 貯留施設は、雨水流出を抑制するため、主に大雨のときの貯留を目的としています。適切な貯留空間の確保と計画的な放流のバランスが重要になります。少ない降雨のとき放流することなく貯留してしまうと大雨時に貯留することが出来なくなります。従って、基本的に常時放流するような機能を有する構造とし、「空」の状態です次の降雨に備える必要があります。また、放流は、公共下水道への放流抑制量を超えることなく、貯留施設の機能を最大限活用できるように計画することが大切です。
- ② 貯留する雨水の公共下水道への放流抑制量を確認します。
貯留する雨水は、公共下水道に放流する必要がありますが、無制限に行なうことは出来ません。各流域と下水道管の種別及び数量ごとに放流量が決まっています。**必ず事前に東京都下水道局と協議を行なってください。**

表 1

流域区分	流域における放流抑制量
神田川流域	0.026 (m ³ /s・ha)
隅田川流域	0.033 (m ³ /s・ha)
石神井川流域	0.026 (m ³ /s・ha)

石神井川・神田川・隅田川流域区分図



- ③ 計画放流量を決定します。

貯留施設から公共下水道へ常時放流できる最大量を次式から算出します。

$$Q = A \times v$$

Q : 貯留施設から公共下水道へ常時放流する最大計画量 (m³/s)

A : 敷地面積 (ha)

v : 流域における公共下水道の放流抑制量 (m³ /s・ha)

ここで算出した「Q」以下の放流を行える貯留施設を設計します。

④ 貯留施設の雨水の調節方式を決定します。

自然放流方式「オリフィス」又はポンプ排水方式「ポンプ」を選択してください。

「オリフィス」の設置をお勧めしています。「ポンプ」は、排水量の調整を正確に行うのは困難です。

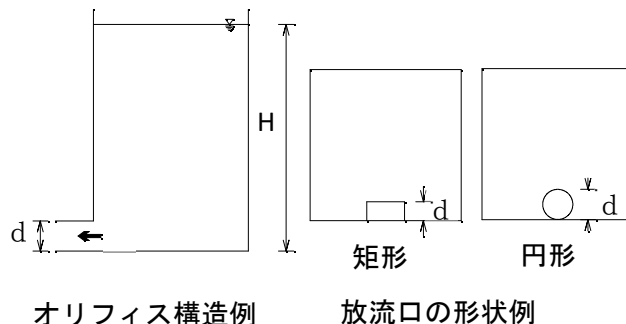
⑤ オリフィスの設計

オリフィスの放流口の形状（「矩形」、「円形」等）を決定します。

オリフィスの流量は、次式から算出することができます。

$$Q = C \times A \sqrt{2g(H - d/2)}$$

Q : オリフィスの放流量 (m³/s)
 C : 流量係数 (= 0.6)
 A : 放流口の断面積 (m²)
 g : 重力加速度 (= 9.8 m/s²)
 H : 水深 (m)
 d : 放流口の高さ、直径 (m)



ここで算出した「オリフィスQ」は、「(3)－②「Q」」の同等値以下になることを確認してください。
 「オリフィスQ ≤ (3)－②Q」であれば、具体的なオリフィス諸元を検討し決定してください。

⑥ ポンプの設計

オリフィス等による自然排水が困難な場合は、ポンプ設備を有する地下貯留槽等を設置することができます。

東京都雨水貯留・浸透施設技術指針P23、同指針（資料編）P48を参照してください。

(4) 浸透施設の浸透量

浸透施設は、浸透機能の他にます本体や充填剤の空隙を利用したの貯留機能も有していますので、原則として浸透量と空隙貯留量の合計を対策量とします。

①浸透施設の浸透量（対策量）＝浸透量＋空隙貯留量

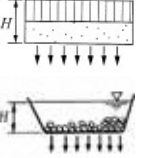
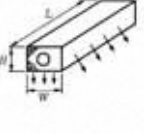
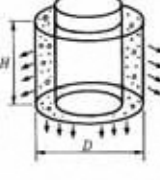
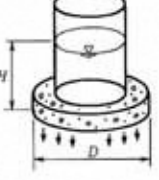
②浸透量(m³/hr)＝基準浸透量(Qf)×設置延長(設置個数、設置面積)
 ＝C×比浸透量(K)×飽和透水係数(f)×設置延長(あるいは設置個数、設置面積)

C : 影響係数 (= 0.81)
 Qf : 浸透施設の単位基準浸透量(m³/hr)
 K : 浸透施設の比浸透量(m²)
 f : 土壌の飽和透水係数(m/hr) (= 0.14)

※比浸透量(K)は、施設の形状と設計水頭により、「雨水浸透施設技術指針(案)調査・計画編」(社団法人雨水貯留浸透技術協会)に記載される次項「表2～参考」の基本式を用いて算出します。

③空隙貯留量(m³)＝透水管やます本体の体積＋充填剤の体積×空隙率
 空隙率：35%（製品の証明書があれば証明される空隙率を使えます。）

表-2 (1) 比浸透量 (K) の算定

施設		透水性舗装浸透池	浸透側溝及び浸透トレンチ	円筒ます			
浸透面		底面	側面及び底面	側面及び底面		底面	
模式図							
算定式の適用範囲の目安	設計水頭	$H \leq 1.5\text{m}$	$H \leq 1.5\text{m}$	$H \leq 1.5\text{m}$		$H \leq 1.5\text{m}$	
	施設規模	底面積が約 400m^2 以上	$W \leq 1.5\text{m}$	$0.2\text{m} \leq D \leq 1\text{m}$	$1\text{m} < D \leq 10\text{m}$	$0.3\text{m} \leq D \leq 1\text{m}$	$1\text{m} < D \leq 10\text{m}$
基本式		$K = aH + b$ H: 設計水頭 (m)	$K = aH + b$ H: 設計水頭 (m) W: 施設幅 (m)	$K = aH^2 + bH + c$ H: 設計水頭 (m) D: 施設直径 (m)	$K = aH + b$ H: 設計水頭 (m) D: 施設直径 (m)		
係数	a	0.014	3.093	$0.475D + 0.945$	$6.244D + 2.853$	$1.497D - 0.100$	$2.556D - 2.052$
	b	1.287	$1.34W + 0.677$	$6.07D + 1.01$	$0.93D^2 + 1.606D - 0.773$	$1.13D^2 + 0.638D - 0.011$	$0.924D^2 + 0.993D - 0.087$
	c	—	—	$2.570D - 0.188$	—	—	—
備考		比浸透量は単位面積当たりの値	比浸透量は単位長さ当たりの値	—	—	—	—

注. 透水性舗装は、目詰まり等による機能低下が著しいため、貯留量(歩道 20mm、駐車場 50mm)で評価する

表-2 (2) 比浸透量 (K) の算定

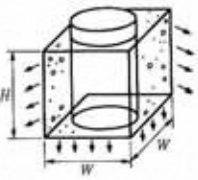
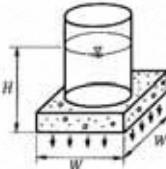
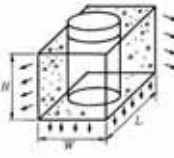
施設		正方形ます						矩形のます
浸透面		側面及び底面			底面			側面及び底面
模式図								
算定式の適用範囲の目安	設計水頭	H≦1.5m						約 1.5m
	施設規模	W≦1m	1m<W≦10m	10m<W≦80m	W≦1m	1m<W≦10m	10m<W≦80m	L≦200m、 W≦4m
基本式		K=a H ² +b H+c H：設計水頭 (m) W：施設幅 (m)	K=a H+ b H：設計水頭 (m) W：施設幅 (m)					K=a H+ b H：設計水頭 (m) L:施設延長 (m) W：施設幅 (m)
係数	a	0.120W+0.985	-0.453W ² +8.289W+0.753	0.747W+21.355	1.676W-0.137	-0.204W ² +3.166W -1.936	1.265W-15.670	3.297L+ (1.971W +4.663)
	b	7.837W+0.82	1.458W ² +1.27W +0.362	1.263W ² +4.295W -7.649	1.496W ² +0.671W -0.015	1.345W ² +0.736W +0.251	1.259W ² +2.336W -8.13	(1.401W+0.684) L + (1.214W-0.834)
	c	2.858W-0.283	—	—	—	—	—	—
備考		—	—	—	—	—	—	—

表-2 (3) 比浸透量 (K) の算定

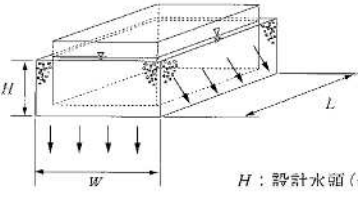
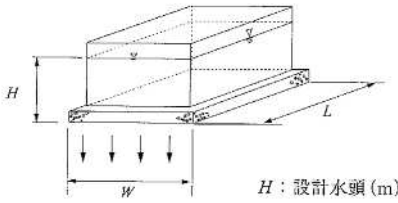
施設		大型貯留槽（既製品に適用可能）					
浸透面		側面及び底面					
模式図		 H : 設計水頭 (m)					
算定式の適用範囲の目安	設計水頭	$1\text{m} \leq H \leq 5\text{m}$					
	施設規模	W=5m	W=10m	W=20m	W=30m	W=40m	W=50m
基本式		$K = (aH + b)L$ H : 設計水頭 (m)、 L : 長辺長さ (m)、 W : 施設幅 (m)					
係数	a	$8.83X^{-0.461}$	$7.88X^{-0.446}$	$7.06X^{-0.452}$	$6.43X^{-0.444}$	$5.97X^{-0.440}$	$5.62X^{-0.442}$
	b	7.03	14.00	27.06	39.75	52.25	64.68
	c	—	—	—	—	—	—
備考		X は幅 (W) に対する長辺長さ (L) の倍率を示す。 $X = L/W$ X の適用範囲は 1~5 倍の間とする。 プレキャスト式雨水地下貯留施設の構造に適した評価式である。					

表-2 (4) 比浸透量 (K) の算定

施設		大型貯留槽（既製品に適用可能）					
浸透面		底面					
模式図		 H : 設計水頭 (m)					
算定式の適用範囲の目安	設計水頭	$1\text{m} \leq H \leq 5\text{m}$					
	施設規模	W=5m	W=10m	W=20m	W=30m	W=40m	W=50m
基本式		$K = (aH + b)L$ H : 設計水頭 (m)、 L : 長辺長さ (m)、 W : 施設幅 (m)					
係数	a	$1.94X^{-0.328}$	$2.29X^{-0.397}$	$2.37X^{-0.488}$	$2.17X^{-0.518}$	$1.96X^{-0.554}$	$1.76X^{-0.609}$
	b	7.57	13.84	26.36	38.79	51.16	63.50
	c	—	—	—	—	—	—
備考		X は幅 (W) に対する長辺長さ (L) の倍率を示す。 $X = L/W$ X の適用範囲は 1~5 倍の間とする。 プレキャスト式雨水地下貯留施設の構造に適した評価式である。					

注) 施設幅 (W) が上記施設幅の間にくる場合、例えば $W=7.5\text{m}$ のようなケースでは、 $W=5\text{m}$ と $W=10\text{m}$ の計算を行い、施設幅 (W) に対し、比例配分して比浸透量 (K) を求める。

(参考 前出算定式の施設に該当しないタイプの浸透施設の比浸透量の計算方法)

① 浸透ます

施設幅・径が同一であれば、標準施設の比浸透量を利用して、当該施設の比浸透量を算定することが出来る。

側面浸透施設のみ：(側面及び底面の比浸透量) - (底面のみの比浸透量)

付加水圧がかかる：標準的な施設に対する静水圧の比により算定

② 浸透トレンチ

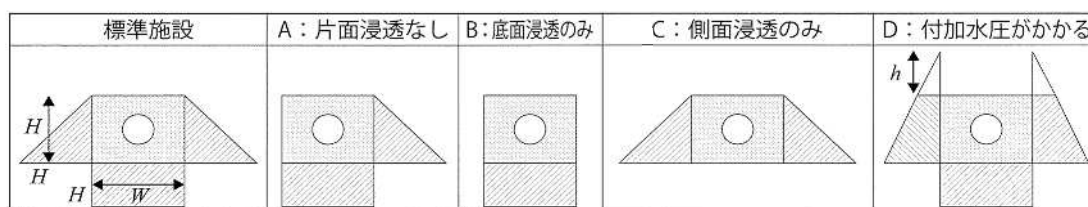
施設幅・径が同一であれば、当該施設の比浸透量は、標準的な施設との静水圧の比を補正係数として、次式で算定できる。

比浸透量＝標準施設の比浸透量×補正係数

ここに、補正係数＝当該施設の静水圧／標準施設の静水圧

4 ケース (A：片面浸透なし、B：底面浸透のみ、C：側面浸透のみ、D：付加水圧がかかる) の静水圧と補正係数を 表－a に、計算例を算定手順とともに表－b に示す。ただし、静水圧そのものの値を計算する必要はなく、施設の単位長さ当りに作用する静水圧を単位体積重量で除した値 (単位は m^2) で表記し、静水圧指標と称す。

浸透施設のタイプ



表－a 静水圧及び補正係数

区分	静水圧 / ρg (単位長さ当り) (静水圧指標、 m^2)		補正係数
	標準施設	該当施設	
A：片面浸透なし	$H(H+W)$	$H^2/2+WH$	$(H/2+W) / (H+W)$
B：底面浸透のみ		WH	$W / (H+W)$
C：側面浸透のみ		H^2	$H / (H+W)$
D：付加水圧がかかる		$H(H+2h) + W(H+h)$	$(H(H+2h) + W(H+h)) / (H(H+W))$

算定手順

① 標準施設 (浸透トレンチ) の比浸透量： $K = aH + b = 3.093H + (1.34W + 0.677)$

ここに、H：設計水頭 (m)、W：底面幅 (m)

② 補正係数： 表－a 参照

③ 当該施設の比浸透量：標準施設の比浸透量×補正係数＝①×②

表－b 比浸透量の計算例

区分	施設の形状など			標準施設		当該施設		
	設計水頭高さ H	付加水圧の水位 h	底面幅 W	比浸透量 K (m^2) ①	静水圧指標 (m^2)	静水圧指標 (m^2)	補正係数 ②	比浸透量 K (m^2) ③
A：片面浸透なし	0.6m	—	0.5m	3.20	0.66	0.48	0.73	2.338
B：底面浸透のみ		—				0.3	0.45	1.441
C：側面浸透のみ		—				0.36	0.55	1.762
D：付加水圧がかかる		0.1m				0.83	1.26	4.036

4. 雨水流出抑制施設の標準構造及び諸元

標準的な構造、浸透能力は、次のとおりです。

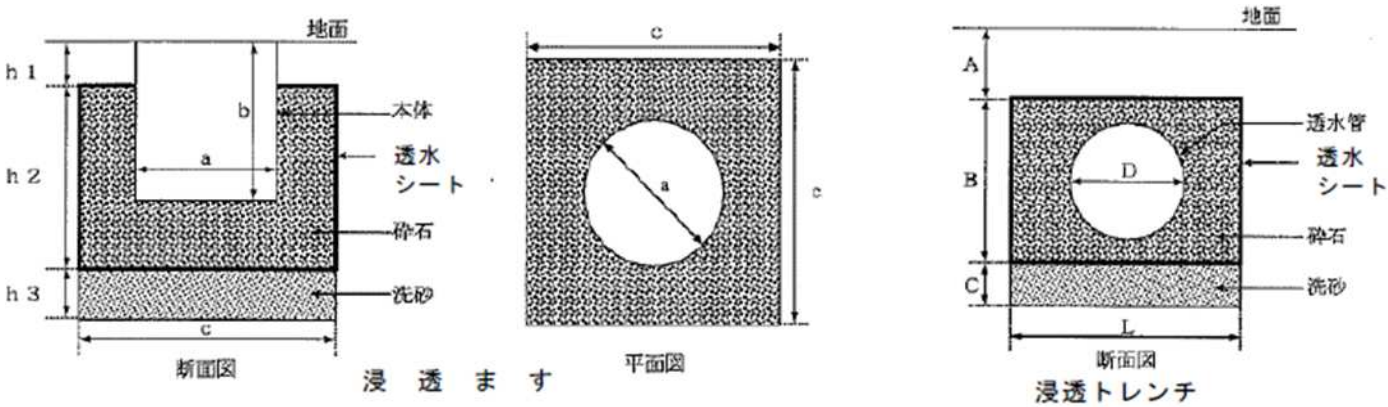
なお、「東京都雨水貯留・浸透施設技術指針」に基づいた諸元であれば、これ以外のものを採用することが出来ます。

浸透ます

型番	ますの径 a (mm)	深 さ b (mm)	h 1 土被り (mm)	h 2 碎石厚 (mm)	h 3 砂 厚 (mm)	施設幅 c (mm)	設計水頭 (h2+h3) (mm)	比浸透量 (m ²)	単 位 浸 透 量 (m ³ /個・hr)	空 隙 貯 留 量 (m ³ / 個)	単 位 貯 留 ・ 浸 透 量 (m ³ /個・hr)
P I	150	400	100	390	25	300	0.415	2.066	0.234	0.016	0.250
P II	200	400	100	390	25	400	0.415	2.679	0.304	0.028	0.332
P III	250	500	100	510	30	500	0.540	4.010	0.455	0.057	0.512
P IV	300	500	100	510	30	600	0.540	4.722	0.535	0.083	0.618
P V	350	600	100	630	35	700	0.665	6.384	0.724	0.139	0.863
P VI	400	600	100	630	35	800	0.665	7.196	0.816	0.182	0.998
P VII	500	800	100	880	50	1000	0.930	11.582	1.313	0.397	1.710

浸透トレンチ

型番	管 径 D (mm)	施設幅 L (mm)	A 土被り (mm)	B 碎石厚 (mm)	C 砂 厚 (mm)	設計水頭 (B+C) (mm)	比浸透量 (m ²)	単 位 浸 透 量 (m ³ /m・hr)	空 隙 貯 留 量 (m ³ / m)	単 位 貯 留 ・ 浸 透 量 (m ³ /m・hr)
T I	75	250	150	280	20	0.30	1.940	0.220	0.027	0.247
T II	100	300	150	325	25	0.35	2.162	0.245	0.039	0.284
T III	125	350	150	375	25	0.40	2.383	0.270	0.054	0.324
T IV	150	400	150	420	30	0.45	2.605	0.295	0.070	0.365
T V	200	550	200	560	40	0.60	3.270	0.371	0.128	0.499
T VI	200	750	250	700	50	0.75	4.002	0.454	0.204	0.658



構成	表層	路盤	フィルター層	舗装厚 (総厚)	貯留量 (m^3/m^2)
使用材料	開粒度アスファルト混合物 2 号	再生クラッシュラン(RC-30) クラッシュラン(C-30)	遮断層用砂		
区分Ⅰ	4 cm	10 cm	5 cm	14 cm (19 cm)	0.02
区分Ⅱ	4 cm	15 cm	5 cm	19 cm (24 cm)	0.05

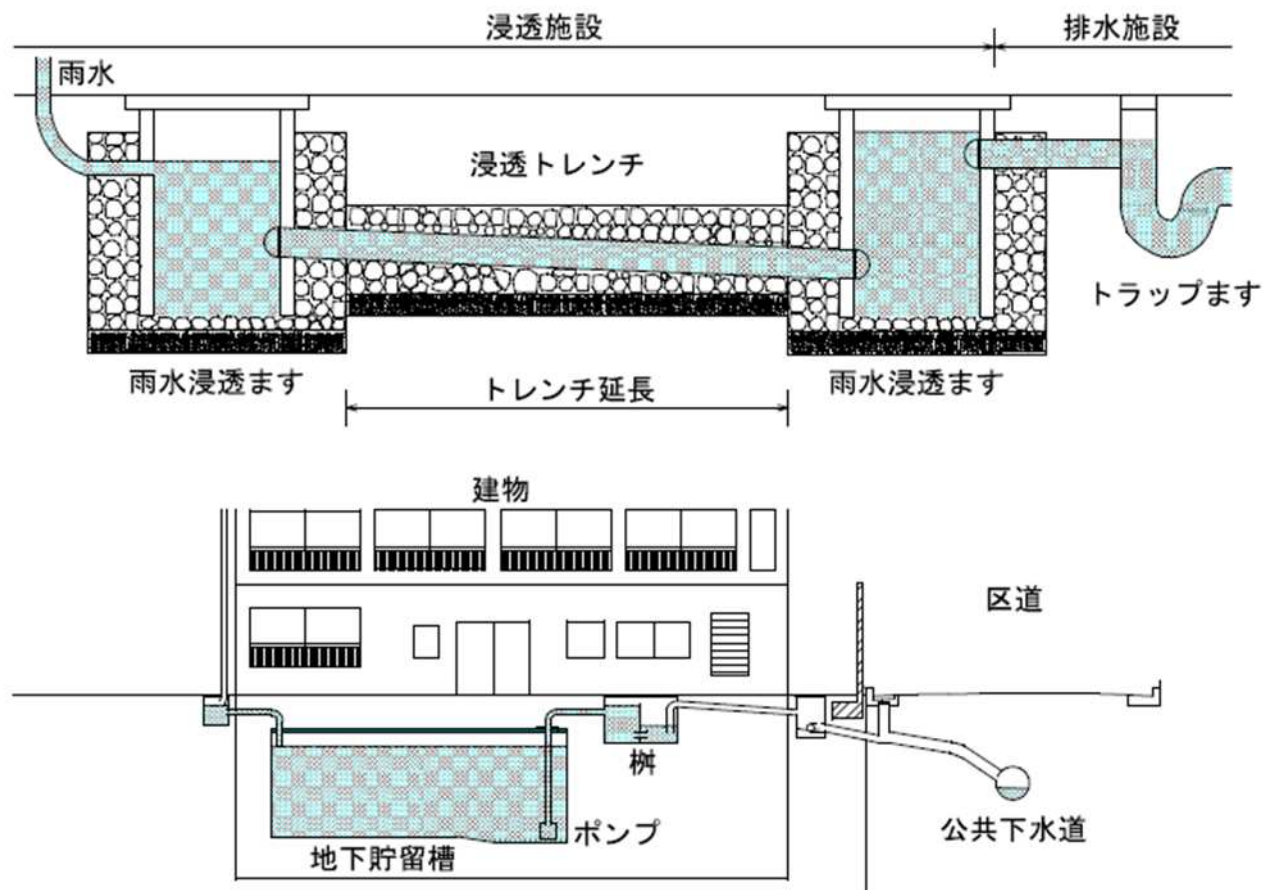
断面図

The diagram illustrates the vertical structure of a road. From top to bottom, the layers are: a 4 cm thick top layer, a 10 cm or 15 cm thick middle layer (crushed stone), and a 5 cm thick bottom layer (filter layer). The middle layer is labeled as 'クラッシャラン碎石' (Crushed stone). The bottom layer is labeled as '遮断層用砂' (Filter layer sand). The top layer is labeled as '開粒度アスファルト混合物2号' (Open-graded asphalt mixture No. 2). The total thickness is indicated as 19 cm or 24 cm.

4 cm
10 cm
又は
15 cm
5 cm

路盤：クラッシャラン碎石
表層：開粒度アスファルト混合物2号
フィルター層：遮断層用砂

土地利用種別	浸透能力 (m ³ /m ²)
芝 地	0.05
植 栽	0.05
草 地	0.02



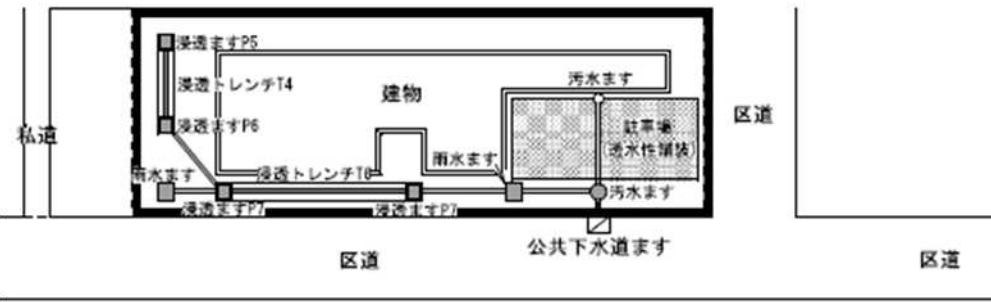
5. 留意事項

雨水流出抑制施設の技術的な詳細は、次の方針指針によるものとします。

- ・ 東京都豪雨対策基本方針(改定)
 - ・ 東京都雨水貯留、浸透施設技術指針
 - ・ 東京都雨水貯留、浸透施設技術指針(資料編)
 - ・ 公共施設における一時貯留施設等の設置に係る技術指針
- 令和 5 年 12 月東京都都市整備局
 - 平成 21 年 2 月東京都総合治水対策協議会
 - 平成 21 年 2 月東京都総合治水対策協議会
 - 平成 24 年 6 月東京都都市整備局

6. 計算事例

【事例 1】 敷地面積 500 m²の建築を計画している場合

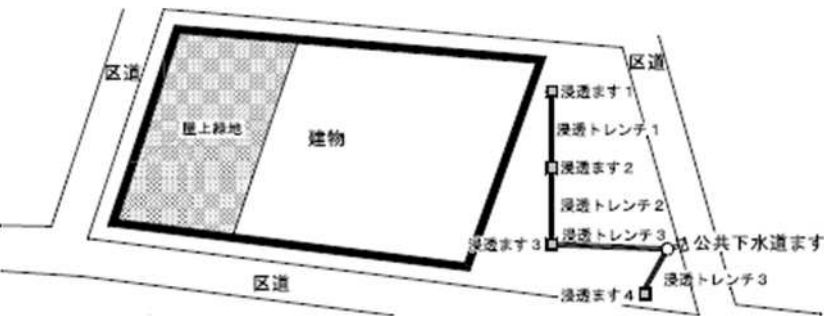


対策量：0.06 m³/m² × 500 m² = 30 m³

浸透ます P5	: 0.863 (m ³ /個・hr) × 1 (個)	= 0.863 m ³
浸透トレンチ T4	: 0.365 (m ³ /m・hr) × 20 (m)	= 7.300 m ³
浸透ます P6	: 0.998 (m ³ /個・hr) × 1 (個)	= 0.998 m ³
浸透トレンチ T6	: 0.658 (m ³ /m・hr) × 23 (m)	= 15.134 m ³
浸透ます P7	: 1.710 (m ³ /個・hr) × 1 (個)	= 1.710 m ³
透水性舗装	: 0.050 (m ³ /m ² ・hr) × 100 (m ²)	= 5.000 m ³
合 計		31.005 m ³

設計対策量 31.005 m³ ≥ 対策量 30 m³ になり、本計画は要綱に合致する。

【事例 2】 敷地面積 530 m²の建築で、「4 雨水流出抑制の標準的構造及び諸元」と異なる製品を使う場合

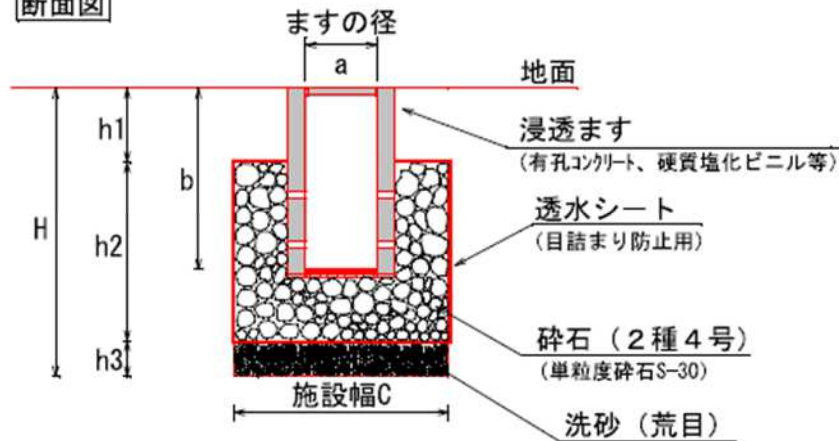


対策量：0.06 m³/m² × 530 m² = 31.8 m³

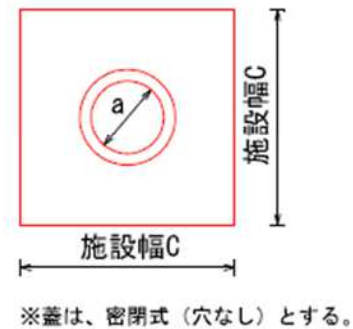
● 浸透ます

「3. 設計手順・設計方法（4）浸透施設の浸透量（対策量）表 2-（2）」の正方形ます、側面及び底面で、施設幅 C=1m、h 1=0.1m、h 2=1.0m、h 3=0.05m、a=0.5m、b=1.0mの製品を採用する。

断面図



平面図



$$\begin{aligned}\text{浸透ますの比浸透量 (K)} &= (0.120C + 0.985)(h_2 + h_3)^2 + (7.837C + 0.82)(h_2 + h_3) + 2.858C - 0.283 \\ &= (0.120 \times 1 + 0.985) \times 1.05^2 + (7.837 \times 1 + 0.82) \times 1.05 + 2.858 \times 1 - 0.283 \\ &= 12.883 \text{ m}^2\end{aligned}$$

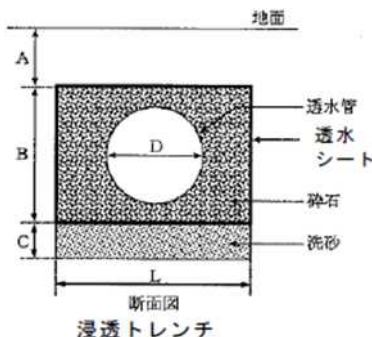
$$\begin{aligned}\text{浸透ますの浸透量 } Q &= \text{基準浸透量 (Qf)} \times \text{施設個数} = \text{影響係数 (0.81)} \times \text{比浸透量 (K)} \times \text{飽和透水係数 (f)} \\ &= 0.81 \times 12.883 \text{ m}^2 \times 0.14 \text{ m/hr} = 1.460 \text{ m}^3/\text{hr}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{浸透ますの空隙貯留量} &= 3.14 \times (a/2)^2 \times (b - h_1) + \{C \times C \times h_2 - 3.14 \times (a/2)^2 \times (b - h_1)\} \times 0.35 \\ &= 3.14 \times (0.5/2)^2 \times (1 - 0.1) + \{1 \times 1 \times 1 - 3.14 \times (0.5/2)^2 \times (1 - 0.1)\} \times 0.35 \\ &= 0.464 \text{ m}^3\end{aligned}$$

$$\text{浸透ますの貯留・浸透量} = (1.460 + 0.464) \times 4 \text{ 個} = 7.696 \text{ m}^3 \quad \dots \dots \dots \textcircled{1}$$

●浸透トレンチ

「3. 設計手順・設計方法 (4) 浸透施設の浸透量 (対策量) 表 2-(1)」の浸透トレンチで、施設規模 A=0.3m、B=0.8m、C=0.05m、D=0.25m、L=0.9m の製品を採用する。



$$\begin{aligned}\text{浸透トレンチの比浸透量 (K)} &= 3.093 \times (B + C) + 1.34 \times L + 0.677 = 3.093 \times 0.85 \text{ m} + 1.34 \times 0.9 \text{ m} + 0.677 \\ &= 4.512 \text{ m}^2\end{aligned}$$

$$\text{浸透トレンチの浸透量 } Q = 0.81 \times 4.512 \text{ m}^2 \times 0.14 \text{ m/hr} \times 20 \text{ m} = 10.233 \text{ m}^3/\text{hr}$$

$$\begin{aligned}\text{浸透トレンチの空隙貯留量} &= \{3.14 \times (D/2)^2 + [B \times L - 3.14 \times (D/2)^2] \times 0.35\} \times \text{延長} \\ &= \{3.14 \times (0.25/2)^2 + [0.8 \times 0.9 - 3.14 \times (0.25/2)^2] \times 0.35\} \times 20 \\ &= 5.677 \text{ m}^3\end{aligned}$$

$$\text{浸透トレンチの貯留・浸透量} = 10.233 + 5.677 = 15.910 \text{ m}^3 \quad \dots \dots \dots \textcircled{2}$$

●植栽及び芝生

屋上緑化の面積 200 m² とする。

$$\text{浸透量} = 0.05 \text{ (m}^3/\text{m}^2 \text{ hr)} \times 200 \text{ m}^2 = 10 \text{ m}^3 \quad \dots \dots \dots \textcircled{3}$$

よって、本建築における貯留・浸透量は①+②+③となる。

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} = 33.606 \text{ m}^3$$

設計対策量 33.606 m³ ≥ 対策量 31.8 m³ になり、本計画は要綱に合致する。

7. 記入要領

(1) 雨水流出抑制施設設置計画書(様式1)

●申請者 施主など建築事業主を申請者として記入してください。

1 施設名称: ○○邸新築工事、△△マンション計画など施設名称を記入してください。

2 施設所在地: 施設の住居表示を記入してください。住居表示が無い場合は、土地地番を記入してください。

3 浸透施設設置考慮箇所: 該当する項目を○印で囲んでください。(P 2 (2) ※参照)

4 種別: 該当する項目に○印で囲んで下さい。

5 敷地面積: 建築計画全体の敷地面積を記入してください。増築の場合は、増築部分の建築面積÷建蔽率で得た値を対象面積欄に記入してください。大規模民間施設については、500㎡以上が対象です。

6 建築規模: 建築物の規模を記入してください。

7 工事期間: 建築工事の着手から完了までの期間を記入してください。

8 排水開始日: 雨水流出抑制施設の稼働開始予定を記入してください。

9 基準抑制対策量: 敷地面積又は対象面積、単位対策量(0.06㎡/㎡)により算出し、記入してください。

10 抑制対策施設の種別、規模、貯留量等: 対策する施設の種類、施設規模、貯留換算量を記入してください。

11 確認事項: 記載している注意事項について確認してください。

12 連絡担当者: 区から提出いただいた計画書の内容を確認する等、区から連絡する場合の担当者を記入してください。原則、メールでやり取りしますので、E-mail を必ず記入してください。

●添付書類

①案内図: 1500分の1程度の図面、住宅地図等により敷地の所在地が確認できるものを添付してください。

②雨水流出抑制計画説明書: 雨水流出抑制対策施設ごとの貯留量及び貯留換算量の算出根拠を記入してください。
(7. 計算事例参照)

③平面図(土地利用計画図): 敷地全体が明示され建築物など土地利用計画がわかるものを添付してください。部分的な増築の場合は、流出抑制対策を実施する敷地の範囲を図示してください。

④雨水流出抑制施設平面図: 設置する雨水流出抑制施設の位置や延長などを示したものを添付してください。

※浸透トレンチを浸透ますに接続する場合の延長は、浸透ますの周囲の碎石厚部分の延長は含まれません。

施設別の集計表など添付してください。

又、建物、敷地内に降った雨が雨水流出抑制施設に流入し、公設桝に繋がるまでの排水経路が分かるようにして下さい。

⑤雨水流出抑制施設構造図: 透水性舗装の断面、浸透ますやトレンチなどの平面や断面図により、その構造がわかるものを添付してください。

⑥面積求積図、面積計算書: 敷地面積、緑地面積、透水性舗装等の計算書の根拠となる面積の求積図(三斜又は座標)、計算書を添付して下さい。緑地等形状が複雑で多数などの場合、CAD求積の上、平面図に各々の面積を記入する方法でも良いです。

⑦その他資料: 排水ポンプの性能がわかる資料、浸透ます及び浸透トレンチ等標準構造以外の製品を利用する場合製品仕様書、その他必要な資料を添付してください。

(2) 雨水流出抑制施設設置計画書(変更届)(様式2)

様式1の確認済印付きの受付番号を記入して下さい。

1~8、10、12については、様式1と同様に記入してください。

9 計画書提出日: 雨水流出抑制施設設置計画書の提出日を記入してください。

11 抑制対策施設の種別、規模、貯留量等: 計画時、変更後の雨水流出抑制施設の種類、施設規模、貯留量及び貯留換算量を記入してください。

●添付書類

①~⑦で様式1と同様に、変更後の書類を添付してください。

(3) 雨水流出抑制施設計画書(完了届)(様式3)

雨水流出抑制施設の工事が完了したら、速やかに様式3を提出してください。

様式1の確認済印付きの受付番号を記入して下さい。

施工による抑制対策施設の規模や貯留量の軽微な変更ができます。

1~10、12については、様式1、2と同様に記入してください。

11 抑制対策施設の種別、規模、貯留量等: 計画時又は変更時、完了後の雨水流出抑制施設の種類、施設規模、

貯留量及び貯留換算量を記入してください。施工による軽微な変更のみ修正できます。

●添付書類

①～⑤、⑧については、様式 1、2 と同様に施行後の書類を添付してください。

⑥工事写真：施行中・施工後の雨水流出抑制施設の状況がわかるように写真を添付してください。

⑦写真撮影箇所図：雨水流出抑制施設平面図に写真撮影箇所を記入してください。

●写真撮影基準

雨水流出抑制施設の形状寸法、設置箇所数、施工延長がわかるように明瞭に撮影してください。

標尺等を当てて写真で目盛りを読む位置がわかるように工夫してください。

施設名	撮影時点	確認項目	撮影内容	頻度
浸透ます 浸透トレンチ	製品納入 掘削 敷砂 透水シート敷設 浸透ます据付、 浸透管等据付 単粒度砕石充填 透水シート敷設 上部仕上げ	製品規格 断面の幅と深さ 砂の厚さ 透水シート 製品、単粒度砕石 砕石の厚さ 透水シート 土被りの厚さ	浸透ますは深さと内径、透水管は内径を写す。 深さについては、基準点から掘削底面までの深さを写す。 基準点から砂の上面までの深さを写す。 底面及び側面に敷設した状況を写す。 単粒度砕石の上に製品が設置された状況を写す。 浸透管の延長がわかるように写す。 基準点から砕石の上面までの深さを写す。 砕石上面が透水シートで覆われた状況を写す。 基準点から上部仕上げ面までの深さを写す。	全箇所
透水性舗装	掘削 各層の施工ごと	断面の深さ 各層の厚さ	基準点からの深さが分かるように写す。 基準点からの深さが分かるように写す。	全箇所
緑地	施工後	全景		全箇所
雨水貯留槽	施工後	形状、寸法	貯留槽の形状、寸法がわかるように写す。	全箇所

【問合せ先】

豊島区都市整備部道路整備課道路整備グループ

〒171-8422

東京都豊島区南池袋 2 - 4 5 - 1 6 階

電話 03-3981-4878

E-mail : A0023309@city.toshima.lg.jp